

古着や傘などをモチーフにした繊細なインスタレーションを手がける平野薫が
7/22（日）より美術館での初個展「記憶と歴史」を開催

箱根の緑を望む高さ 5 m のロビーにて、新作 3 点を含むインスタレーションを公開！



ポーラ美術館（神奈川県・箱根町）は、2017 年 10 月に、現代美術を展示するスペース「アトリウムギャラリー」をオープンし、平成 8 年よりポーラ美術振興財団が助成してきた若手芸術家たちを紹介する「HIRAKU Project」を開始しました。第 5 回目の展示として、「平野薫—記憶と歴史」展を、2018 年 7 月 22 日（日）から 9 月 24 日（月）まで開催いたします。

平野薫は、古着や布製の小物などを糸の一本一本にまで分解し、それらを展示空間の中に再構成する繊細なインスタレーションを手がけてきました。ドレスや下着、靴、傘といった身の回りのモチーフは、元々の素材である糸の状態に戻されることで、燃れ（よれ）や色褪せを一層顕在化させ、それを身に付けていた人の「気配」や「身体性」、そして個人の「記憶」を強く感じさせます。

本展覧会では、身近なモチーフから漂う個人の記憶や経験を扱いながらも、それを歴史という大きな流れの中に還元していくことをテーマとし、新作 3 点を含む計 4 点を展示いたします。

3 点の傘（旧作 1 点、新作 2 点）を組み合わせたインスタレーションでは、作家が留学したドイツの傘（旧東ドイツ製）と、故郷・長崎、そして現住地・広島で入手した傘を使用しています。3 つの都市で出会ったモチーフのインスタレーションが重なることで、これらが歴史的に強い意味を持つ場所であることを想起させます。

また本展では、工業用のミシンや糸を使った新作インスタレーションも発表いたします。本作品はこれまでの平野の作風とは大きく異なる、新たな展開を予見させるものです。戦時中の重機製造にルーツをもつメーカーのミシンを用い、戦後日本の高度経済成長を支えた工業機器と、私たちが日々消費する衣服や繊維との関係性、そして近代日本の歴史を暗示するかのような作品を試みます。個人の記憶を歴史の中に還元すると同時に、歴史という漠然とした概念が「誰かの記憶や経験の集積」であることを、観る者に強く訴えかけることでしょう。



新作参考イメージ

◆平野 薫（ひらの・かおる）

1975年長崎県生まれ。広島市立大学大学院修了（2003年）。古着などを糸の一本一本にまで解き、再構成する繊細なインスタレーションを手がける。第1回 shiseido art egg 賞受賞（2007年）。ACC 日米芸術交流プログラムによりニューヨークにて研修（2008年）、文化庁新進芸術家海外研修制度によりベルリンにて研修（2009年）、ポーラ美術振興財団在外研修員としてベルリンにて研修（2010年）。主な展覧会に、「Re-Dress」SCAI THE BATHHOUSE（東京、2012年）、「服の記憶」アーツ前橋（2014年）、「Remembering Textiles」LWL-Industriemuseum TextilWerk Bocholt（ボホルト（ドイツ）、2016年）、「交わるいと」広島市現代美術館（2017年）など。

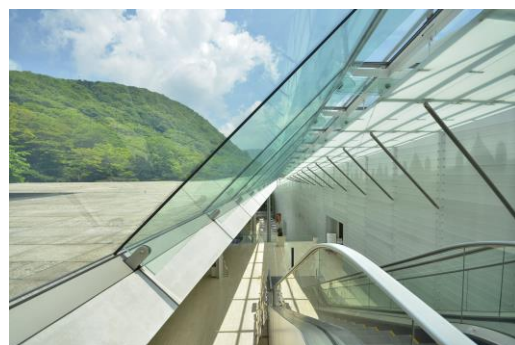


Photo by LWL-Industriemuseum / Martin Holtappels

■ポーラ美術館について (<http://www.polamuseum.or.jp/>)

2002年に神奈川県箱根町に開館。ポーラ創業家2代目の鈴木常司が40数年間にわたり収集した、西洋絵画、日本の洋画、ガラス工芸、古今東西の化粧道具など総数約1万点を収蔵。

- ・開館時間：9：00-17:00（入館は16：30まで）
- ・休館日：無休（展示替えのための臨時休館あり）
- ・所在地：神奈川県足柄下郡箱根町仙石原小塚山1285
- ・TEL：0460-84-2111



■本件に関するお問い合わせ

ポーラ美術館 広報担当：中西、藤田

TEL：0460-84-2111 / FAX：0460-84-3108

ポーラ美術館 広報事務局 担当：名取、屋木

TEL：03-4570-3172 / FAX：03-4580-9155 / MAIL：polamuseum.pr@prap.co.jp